

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473001065	事業の開始年月日	平成17年6月1日
		指定年月日	平成17年6月1日
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所		
事業所名	グループホーム すみれの家		
所在地	( 242-0013 ) 神奈川県大和市深見台1丁目 10番15号		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年10月4日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・季節の物を取り入れた手作りの食事。・各ユニットごとに工夫を凝らして行われる行事。入居者様が選べる希望献立。・入居者様は笑顔で生活できるよう、ご家族は安心して私たちに託せるよう、スタッフは健康で元気にお手伝い出来るような施設を目指しています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月27日	評価機関 評価決定日	令和5年3月3日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急江ノ島線、相模鉄道線の「大和」駅からバス利用あるいは、徒歩15分ほどの静かな住宅地にあります。開設から19年目を迎える事業所は地域との関係を地道に構築しています。

<優れている点>

「明るく元気で快適な生活を送れるように」という趣旨の基本理念に沿った支援に努めています。在職歴の長い職員が多い事業所により、利用者との信頼関係はもちろんのこと、職員は利用者同士の会話に耳を傾けるようにしています。本人の表情や態度からも思いや本音の把握に努めています。気づいたことは「気づきノート」に記載し、職員間で共有して利用者支援の基盤となるケアプランの総合的支援の方針として随時反映をしています。また、その人らしい暮らしのために、過去の不適切な事例を基に話し合う機会を持っています。職員は介護者としての立場をわきまえる、仕事としての意識を持つ、利用者とただ仲良くすることと信頼関係を踏まえた上での支援は別物であることを、管理者は職員に伝えています。

<工夫点>

食事は手作りにこだわり、献立作成、買い出しもしています。利用者も調理や後片付けに関わっています。食事は感染症に留意しアクリル板を立て、職員も同席して同じ食事を摂っています。時には利用者の希望で、宅配ピザ、出前の鮭、持ち帰り弁当などを楽しんでいます。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム すみれの家
ユニット名	つくしんぼ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	2023/4/13	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスのあり方を職員同士で確認し入居者のニーズや状況の変化に伴い現状にあった理念を職員全員で考え定期的に作り直せるようにしている	理念は利用者一人ひとりに寄り添い、「人格の尊重、家庭的な雰囲気の中で、明るく、元気に過ごす」ことを目指して理念の実践に努めています。玄関に掲げて共有しています。今後は現行理念を皆で見直し、新たな理念創りに専念しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会による獅子舞や神輿の行事を施設の敷地内で行ってもらい、施設内で見学している。地域の方と挨拶を交わしたり畑の作用や不要となった介護用品を頂くなど交流を深めている	自治会に加入し、地域の情報などは回覧で得ています。コロナ禍では外部との交流は自粛しています。祭りの神輿や獅子舞は事業所の庭で観覧し、楽しんでいます。地域の行事への参加、地域に解放した「すみれ祭り」などコロナ収束を待つところです。	開設以来築いた、地域行事への参加、地域のイベントとなった「すみれ祭り」、認知症カフェの開催、各種ボランティア招聘など、コロナ収束後は地域密着型事業所としての継続が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験を受け入れたり施設のお祭りに地域の人を招き認知症の人の理解や支援方法を活かしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では報告の他、出席された方々から質問や意見を聞き双方向的なものになるようにしている 市役所からの参加の時などは実際に居室を見てもらい拘束に当たらないかなど、その場で出席者に説明を行ってもらったりしている	会議の構成委員は町内会長など正規メンバーの他、時には主治医などの参加もあります。コロナ禍では2ヶ月ごとに、内部の書面会議となっています。活動状況や運営状況、他感染症対策などの意見交換をしています。議事録は委員や家族に送り共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	不安に思ったことや疑問に思ったことなどは電話で問い合わせをし相談をしている 認知症カフェなどの開催には当施設を使用したり、連絡会には参加し医療系従事者とも交流をしている	運営推進会議の報告や介護認定の申請代行、ケースワーカーや困難事例の相談など行政と連携を取っています。感染症対策については緊密な連携を取っています。身体拘束や虐待防止などのケアについて随時相談をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1回のペースで行い、その他スピーチロックとは等のアンケートを職員全員で行い研修に繋げている	事業所の方針は運営規定に明記しており「行動指針」でも謳っています。身体拘束適正化委員会を定期的で開催し、周知徹底をしています。職員は身体拘束の弊害について理解しています。職員は記名の「自己チェックシート」でふり返り、拘束のないケアに努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	資料を用いて各ユニットごとにケアについて定期的に話し合いを行っている 管理者は過度な疲労を作らない様な勤務表で配慮をし職員は声を掛け合いながら仕事に取り組んでいる	研修や「行動指針」、虐待防止委員会とは一体で開催し啓蒙に努めています。記名の「自己チェックシート」でふり返りを行っています。どういことが虐待にあたるのか不明な場合は行政に相談、確認をしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	後見人制度や日常生活自立支援事業については機会が有るときに職員に説明をし研修を行っている また必要だと思われる事例に関しては馴染みのある後見人に相談などをしてたりしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の読み合わせ時には難しい内容、言葉があった時には、その場で説明を行い、質問・疑問などにも回答できるように途中途中で、声掛けを行いながら行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍の中で、ご家族の意見・要望などは運営推進会議に絡め、普段言いにくいことを手紙でお願いしている。 出された意見、要望等は職員で話し合いの場を設け反映させている。	コロナ禍では時間を決めて、窓越しに電話を使用して面会をしています。利用者の活動状況は推進会議議事録や「すみれの家」便りを家族に届けています。利用者の個別のニュースも合わせて送っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段からコミュニケーションを図るように心がけ職員の要望や意見を言いやすい環境を作れるように心掛けている。	毎月のユニット会議や個別面談を機会に聞いています。管理者は日頃から、職員が自由に意見や要望、提案などが自由に言える雰囲気を作っています。法人が来訪し職員の声を聞いています。節電の提案や行事やイベントの企画提案は運営に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	上司も概ね月に一回、事業所を訪問しており職員が上げた意見や、要望等を管理者か伝えている。	職員の仕事の努力、成果は適正に、人事考課に反映しています。有給休暇は計画的に取得しています。管理者は適宜、ケアの疲れに配慮し、休暇を奨励しています。シフトの作成に当たっては職員の希望など、諸事情を反映して作成しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の情報を収集し、職員がなるべく研修を受けられるようにシフトの調整等をしている。新人には2週間から3週間、なるべく同じ職員を付け、入居者一人一人のケアから疾患までケアを通じながら指導を行っている。	毎月1回行う年間の研修計画を立てています。職員は全員研修を受けています。新人の研修には特に力を注ぎ、2～3週間OJTを中心に研修し人材育成に努めています。職員は研修や自己研鑽により、知識の向上や資格取得、サービスの向上に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会や市で行われている各連絡会に出席し、そこで学んだこと情報などを持ち帰り、研修おこないサービスの向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の困っていること、不安なことに耳を傾け、月一回のカンファレンスにて職員間で話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が困っていること不安なことを理解しご家族の気持ちをうけとめ耳を傾けながら関係性を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にご本人やご家族の要望や状況等を確認しその時点で何が必要かを見極め必要なサービスをつなげるなどの対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者、介護者という意識を持たず年長者である利用者から教わる事への感謝する気持ちを持ち、お互い協力しながら生活関係性を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族、ご利用者の様子をこまめに報告や相談をし情報共有することで共にご本人を支える関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ以前は、行きつけの美容室に通ったり定期的に友人が来苑するなど交流もっていました。	コロナ禍以前は、事業所内での面会のほか、行きつけの美容室、友人とのランチ外出、家族旅行などの支援をしていますが、現在は控えています。電話や手紙のやりとりは継続できるようにしています。音楽鑑賞、洋裁など趣味の継続支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が利用者同士の関係を把握し楽しく過ごせる場面づくりをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了してもご家族からの相談にのったり、これまでの支援内容などの情報提供をしています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から関りをもち、ご本人の視点に立ち、職員同士で話し合い、思いや意向の把握に努めています。	利用者信頼関係を築くことはもちろんですが、利用者同士の会話に耳を傾けるようにしています。本人の表情や態度からも把握に努めています。気づいたことは「気づきノート」に記載し、ケアプランの総合的支援の方針として随時反映をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人やご家族から生活歴や個性、価値観を開くことでこれまでの暮らしを把握し、本人への理解につなげています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の一日の過ごし方を理解し、支援を行うことで心身状態や有する力等を発見、把握できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングを行い、職員の意見や気づきを基に作成している。また本人の意向や家族の要望を計画に反映させるようにしている。	入居後1ヶ月の暫定ケアプランを作り、様子を見た後、本プランを作成しています。長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月で3ヶ月ごとにモニタリングをしています。変更が必要な場合は、事業所の考えを伝えつつ、家族の意向を必ず聞き取っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に記録を用意し、食事・排泄・一日の生活の流れ等を記入しています。また、診療ノートを個別に用意し、往診時の詳細などを記録し、職員間で情報の共有、介護計画の見直し、実施を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人やご家族の状況に応じて通院や食事内容を工夫し提供するなど、対応、支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で現在は自粛していますが、定期的に運営推進委員会を行い、各参加者と意見交換を行ったり、年に一回施設のお祭りを行い、地域の方と交流を持ったりしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他、本人の今までのかかりつけ医や本人、家族が希望する病院へ受診できるよう対応しています。	現在は全利用者が事業所の協力医をかかりつけ医とし定期的な訪問診療を受けています。通院が必要な時は、基本は家族対応ですが、難しい場合は管理者が付き添っています。看護師の訪問は週2回あり、利用者の健康管理に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問時だけでなく、常に訪問看護師と連絡が取れるようになっている為、日々の体調や心身の変化に気づいたことがあればすぐに報告し、相談・対応を行ってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や医療機関と協働しながら、情報交換や相談を行い、スムーズに退院できるように、また退院後に必要な支援ができるようにしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	職員と本人、家族とでコミュニケーションを充分にとり、本人、家族が納得していただけるように行っています。	入居時に「利用者重度化に関する指針」を説明しています。重度化した場合は何度も家族等と話し合いを重ねます。カンファレンスを丁寧に行い、その人の最期まで寄り添いながら支援をしています。昨年度の看取りの後は振り返りカンファレンスも行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員が研修を行い、いつなんどきでも出来るような対応を練習する。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練を職員と地域の方々とでコミュニケーションを図り行っている。	災害対策は、コロナ禍なので自主訓練を実施しています。その他、今年度は大和消防署で実施した夜間想定訓練に職員が参加しています。地域との協力体制を構築しています。事業所で準備している備蓄品を必要時には自治会も使用できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	普通の人と変わりなく常識のある態度をとる。	過去の不適切な事例を基に話し合う機会を持っています。職員は介護者としての立場をわかまえる、仕事としての意識を持つ、利用者とただ仲良くすることと信頼関係を踏まえた上での支援は別物であることを、管理者は職員に伝え支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の意見を尊重しあい、本人が決めた通りに職員が手伝いをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人が普通に生活したようにどのように生活したいか、買い物や外食をしたいかを話し合いながら希望に応じて支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔の保持に基づき化粧やマニキュアをしたり洋服も少しおしゃれなものを着て頂く。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備では、季節を感じられるように旬の食材の皮むきなどを出来る範囲で職員と会話を交え行っています。	美味しい食事にこだわり手作りの食事を提供しています。献立作成、買い出しもしています。利用者は調理や後片付けに関わり役割を担っています。食事は感染症予防のためアクリル板を立て、職員も同席して同じ食事を摂っています。時には利用者の希望で、宅配ピザ、出前の鮭、持ち帰り弁当など楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医師、訪問看護師に相談しながら個々の方に合った栄養バランスや形態、水分量を提供し、体重管理も行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	基本的に口腔ケア、義歯の着脱・洗浄はご本人に行っていただくが、必ず立ち合い、誤嚥等の危険が無いよう見守ると共に必要に応じてケアの補助も行い、口腔の状態の観察も行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を基に各入居者様と会話をしながらトイレ誘導を行ったり自尊心を配慮しながら介助を行っております。	自立排泄している人は自分のタイミングでトイレに行っています。その後職員に自己申告をしています。支援が必要な場合は定時誘導をしています。退院後でおむつ対応になった場合も職員の適切な支援で自分でトイレに行くまで改善した事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事はもち麦入りごはんや雑穀米のご飯を取り入れたり、食物繊維も積極庭に取ったり、水分量も体操も工夫しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	季節を思い出していただけるようしょうぶ湯やゆず湯を取り入れたり、職員とゆっくり浴室で会話も出来るよう入浴順も工夫しています。	年中行事の柚子湯やしょうぶ湯で季節を思い出してもらおうようにしています。日々の入浴は、その日に一番風呂に入る利用者に入浴剤を選んでいきます。介護度が高い場合も湯舟に浸かれるよう2名介助で支援をしています。本人の希望でシャワー浴の対応もしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人1人、個別に応じて空調温度調節を行い、良質で安眠出来る環境を提供するよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルを作成し個々の使用している薬の理解をしています。また、薬の変更時には申送りノートや個人の診察ノートに必ず記載し周知徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍が続き外に出る事が出来ない為、個々の出来る事や得意だった事（お裁縫やチラシでのごみ箱作り）を行っていただき役割を持てるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、外出しづらいですが、一人ひとりの状態や希望に合わせ、苑庭や駐車場に出て散歩をしています。	以前は引地川沿いの桜の名所にドライブを兼ねて皆で出かけていましたが、コロナ禍のため自粛しています。現在は庭や駐車場での外気浴や近隣散歩で気分転換をしています。買い物も感染症予防のため控えていますが、心の安定に繋がる墓参りは家族付き添いで継続しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍の為、現在は自粛中ですが、買い物に行く際にはお金を用意して使えるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望があれば、いつでも家族、友人等に電話をしたり手紙を書いて連絡ができるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は自分の家にいるような安心感のある場所になるよう工夫しており、リビングや廊下には季節感のある飾りつけをしています。	中庭があり、建物中心にも陽が差し込む造りのリビングは利用者同士が会話をしたり、午後の日課の運動も楽しめる空間となっています。開設から19年目を迎える事業は換気や消毒も徹底し、清潔保持に努めています。季節感のある飾りをする事で環境の調整もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間にはソファを幾つか用意し、一人でゆっくり過ごしたり、気の合う利用者同士が会話を楽しんだり出来る様工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には普段から本人が使い慣れているタンスや棚などを持ってきていただき、入居者が安心して過ごせるよう工夫をしています。	仏壇、タンス、文机、盆栽、化粧品、ラジオ、鏡など長年の馴染みであったり、大切にしてきた品々を持ち込み、その人らしい居室になっています。コロナ禍以前は整理整頓や不足品の管理など家族にお願いしていましたが、現在は職員が支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の状況に合わせて浴室の手すりの増設、また生活の中で必要不可欠の場所は、ここは何という張り紙をしたりとなるべく一人一人が安心して生活できるように工夫し配慮している。		

事業所名	グループホーム すみれの家
ユニット名	どんぐり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	2023/4/13	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	監理者を中心に職員全員が考えた理念を掲げより良い事業所にするために、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で地域との交流行事は減っているが、お正月には地域の方が事業所駐車場で獅子舞を披露して下さり、窓越しにて一年の始まりを一緒に過ごされるなど交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍のため、直接の地域貢献が難しい中、地域や他地域での研修などに参加して地域の人々に活かせるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、運営推進会議は行われていないが、ケアマネージャーと共に毎月カンファレンスを行い、意見交換やサービスの見直しなどサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認定更新の機会等には、直接情報交換を行い、コロナ禍のためコロナ感染対策やワクチン情報など、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し委員以外にも周知徹底を行っている。ご本人の行動に寄り添い一緒に庭やベランダ等に自由に行くことができる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を立ち上げ3ヶ月に1回研修会を行っている。言葉かけや態度に注意しながら、おかしいと思った事はスタッフ間で話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	監理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要とする利用者からそれらを活用できるよう話し合い、又家族等にも周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際と解約又は改定等の内容もふくめ利用者や家族に細かく説明しひとつひとつに理解、納得をしていただいた上で契約の締結を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からは電話や通院時、面会（今は中止）の際に、話せる時間を設けている、利用者からは、日常的に意見や要望を話しやすい雰囲気作りをし、すぐに反映出来るよう職員で話し合う場を		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	監理者への意見や提案は常時聞く機会が持てる雰囲気作りに努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の日頃の努力や実績、勤務状況等を把握し、処遇改善へ反映させ向上心を持って働けるよう職場のあらゆることの整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員育成の重要性を認識し各自の立場や経験、習熟度に合った学びの機会を確保し勤め支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣の施設等とイベントを計画したり、勉強会、相互訪問等を行っていたが、コロナ禍のため出来ていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご自宅や施設に伺い、本人から不安なことや要望を伺いながら、信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご家族から生活歴、不安なことや要望を聞き取り、入居後も日常生活を報告し、何か問題があった際にはご家族に相談し連携を図り、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人とご家族の意向を把握し、サービス開始段階で安心して受けられるよう努めている。 サービスをスタッフ間で話し合い、様々な選択肢を考え利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の出来る事を手伝っていただき、洗濯物干しやたたみ、縫い物やパッチワークなど出来る事を手伝っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月家族様にお便りを書き、生活状況や写真などをお知らせしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今はコロナ禍の状況で出来ませんが、電話で話したり、ご家族と食事に出かけたり、お茶や外出、買い物等に行き支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居様が会話の中に入れるよう、スタッフが橋渡し役したり、一緒にレクリエーション等を楽しめ、孤立しないよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでの本人の状態や支援の状況等の情報を提供し必要に応じ相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント、モニタリングをして本人の意向、状態をカンファレンスで確認して、より本人の望む生活が出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活歴等を家族、CMサービス事業者へ情報提供してもらっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のカンファレンスで利用者本人の様子を分析し今出来ていることの維持向上の為、話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	気づきノート、申送りノート、カンファレンス等を活用し、スタッフ全員で利用者本人により良い介護が提供出来るようプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別介護記録をチェックしてカンファレンス等で話し合い、モニタリング、アセスメントを通しケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族と話し合い、通院に介護タクシーを利用したり福祉用具の提案をしたりして、より多様なサービスが受けられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で地域との交流行事が中止される中、過去の行事参加や季節ごとの催しの様子をお話しして一緒に楽しむようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	希望するかかりつけ医がある場合の受診は可能で、これまでの経過や様子等の情報を提供し医師からの指示を受け対応し連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の体調の様子を把握し訪問看護師と情報を共有し訪問日以外や夜間でも常に連絡をとり細かいことでも相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺い家族・病院関係者と情報交換し安心して治療に専念できスムーズに退院できるよう努めている。コロナ禍に伴い医療機関の指示にしたがっている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設の方針を説明した上で家族の意向を確認し施設で出来ることを段階的に協議を重ね共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアル、事故防止マニュアルを作成し周知すると共に急変時の対応について勉強会を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に地域の住民、消防署等の協力のもと防災避難訓練を行ってきたが、現在コロナ禍に伴い、大々的な訓練は実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者のプライバシーに配慮した声掛けを心掛けている。生活しているうえで何かあった場合、利用者の傷つかない言葉をえらび、言葉使いに気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の理解力に合わせた声掛けをする。欲しい物がある場合、職員が希望を聞き買いに行くか家族に伝え持ってきてもらう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を優先するのではなく利用者のペースに合わせて家で過ごしているのと変わらない様心掛けている。介助が必要な利用者は状態に合わせて声掛け対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者が使っている化粧道具などを買って化粧を楽しむ。 2か月に一回、理美容を行う。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者との会話で好きな物、嫌いな物の話をして情報を得る。 利用者の状態に合わせ食事の提供を行う。 食後、食器の片付けを職員と行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	定期的に体重測定を行っている。 歯科検診をして入れ歯の状態を把握する。 きざみ、ミキサー食への対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケア時は必ず付き添い見守り、入れ歯のない方は洗浄剤に入れる。 歯がない人はスポンジ等でケアをする。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレまで付き添い、排泄の確認。 リハパン、パッドの交換をする。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ドクターの指示で服薬等に対応し、毎日歩行訓練をしていただく。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	季節によって入浴剤を変えたり、足浴をしたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼間と夜が逆転しないよう心掛けて日中を過ごして頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期的にドクターや看護師に診察して頂き指示を聞く。 服薬管理マニュアルがあり用法や容量など理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外に出られない為、入居者様のお誕生日会やお楽しみ会をやっています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今コロナが増加していて外出は出来ませんが、イベントをやったりレクリエーションを取り入れています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要に応じて、スタッフが入居者様が希望される物を買ってきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	会話や文書の理解が困難な入居者もおられるので、ご家族に月1回のお便りで現況報告を行っております。年間行事のお楽しみ会等には写真を撮影し、送らせて頂いております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間にもそれぞれの居場所があり、思い思いの会話ができる居心地良く過ごせる様、食席等も配慮を行っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	毎日の習慣で新聞や読書、TV鑑賞等、気の合う同士で会話を楽しまれる様工夫をしております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	1人1人の身体機能や認知機能に合わせ日常生活（ADL）等をご家族と相談しながら安全に生活を送れる様に工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人1人のADLに合わせ、出来る事を尊重しながら（縫い物、洗濯干し・たたみ、食器洗い）自立した安全に生活できるように支援を行っています。		

2022年度

事業所名

作成日： 2023年 4月 12日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	II	入居者本人と家族の意向が違い、どちらを優先すべきか。	ご家族とより信頼関係を築き、どんな事でも相談していただけるような関係を作っていく	これからもまめに連絡を入れるようにし、連絡が取れなく伝えられない時は介護記録にまとめ、来苑時に確認してもらい現状を把握していただけるように努める。また来苑時には意見交換が出来るような環境作りに努めていく。	12ヶ月
2	I	入居者のニーズや現況の変化に伴い理念の改定	職員一人ひとりが意見を出せるようにする。	時間が掛かっても職員一人ひとりの理想とする概念を紙に書いてもらいそこから新しい理念を考え決めて行く。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月